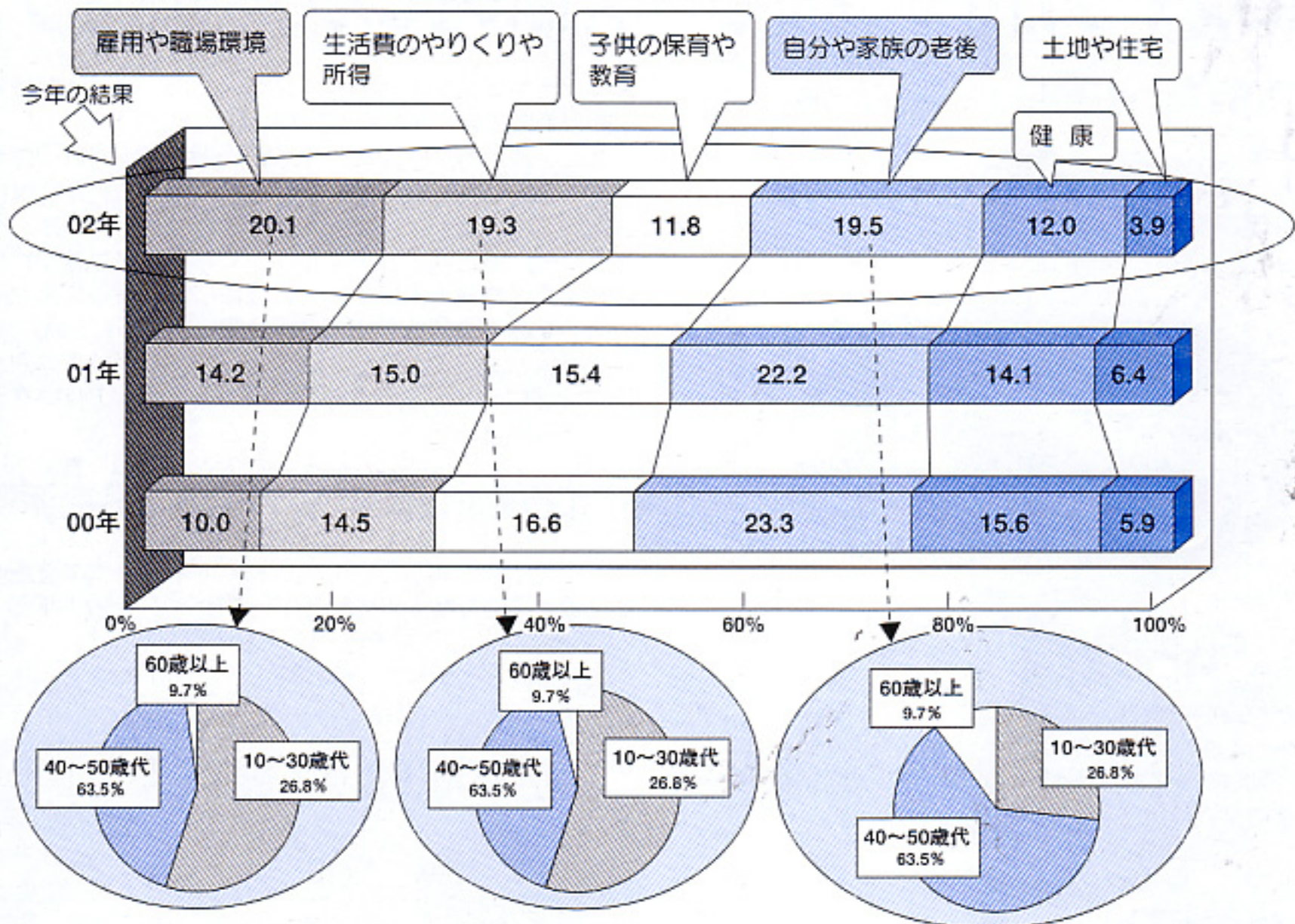


# 先行き不安の解消が急務!!

先月号で、速報としてお知らせした「2002県民意識調査結果」の詳細な分析を行う中で、県民の皆さんが何らかの不安を抱えながら生活している実態が、浮き彫りになってきました。（集計数：2,115名分）

そして、中でも一番の心配事は「雇用不安」であることが、あきらかになりました。

県民の心配事・関心事グラフ（抜粋）



上のグラフでわかる通り、昨年までは「自分や家族の老後に関する事」が、一番の心配事にあがっていましたが、今年は「雇用や職場環境に関する事」すなわち「雇用不安」が一番にあがる方が、最も多いという結果になりました。

また、丸で囲ったグラフの通り、それぞれの項目を年代別に見てみると、「雇用や職場環境」、「所得や生活費のやりくり」それぞれで、10～30歳代と40～50歳代の働き盛り世代の割合が多くなっているのがわかります。

さらに、「自分や家族の老後」においては、40歳代以上の割合が多くなっているのがわかります。

続いて雇用不安解消に向けた対策に関する要望項目を見てみると、右のグラフの通り、「労使の話し合い」、「景気・雇用対策関連予算の増額」、「労基法違反に対する指導強化」などを望む声が多く、まさに行政と労使が一体的に取り組むことの大切さを裏付ける結果になっています。

連合群馬は、こうした分析結果を政策・制度要求と提言の取り組みや、連合群馬・雇用対策室の取り組みに着実に活かして行きます。

雇用不安解消に向けた対策グラフ（抜粋）

